

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470205133
法人名	有限会社ホットファミリー
事業所名	グループホーム阿戸福香の家
所在地 (電話番号)	広島県広島市安佐南区沼田町阿戸小松ヶ峠3825 (電話) 082-830-4055

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年11月24日	評価確定日	平成22年1月5日

【情報提供票より】(平成21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人,	常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / ○単独	新築 / ○改築
建物構造	木造平屋造り	
	地上 1 階建 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無 ○
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日1,500 円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 人	男性	1 人	女性	8 人
要介護1	2 人	要介護2	3 人		
要介護3	1 人	要介護4	1 人		
要介護5	2 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 83 歳	最低	67 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大中医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム阿戸福香の家(以下、ホーム)は、広島市郊外の自然に恵まれた地域にあります。
「ひとりひとりの思いを受けとめ、お互いに共感し、この地域で喜怒哀楽を共にし、支えあってまいります。ゆっくり、ゆったり、のんびりと」という分かりやすい言葉で表現された理念は、介護に長年携わってきたホーム長(管理者)の熱い思いが表現されたものです。
開設後間もなく地域に溶け込む努力を始められ、現在ではホームが主催する「ふくかサロン」には、地域住民も参加メンバーとして定着してきました。運営推進会議のメンバーのホームに対する理解が深まっていく中で、ホーム前の道幅の拡幅が実現したり、庭の柵づくりの協力が得られるなど、確実にホームが地域に根付いていっていることが確認されました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、運営推進会議の開催が課題となっていました。開催時間の変更が行われ、多くの参加を得た会議となっていることがうかがえました。また、開催頻度についても、3か月に1回から2か月に1回に変更するなど、地域にホームを理解していただく取り組みが着実に形になって表れています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組まれています。外部評価の結果を運営推進会議や職員会議で報告し、改善の提案があった事項については、着実に課題解消に向けた取り組みが行われています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は今年度から2か月に1回開催されるようになりました。また、開催時間帯の再検討を行ったこともあり、多くの参加が得られるようになってきました。会議をホーム運営に関する知恵をもらう場として捉え、出された意見はホームの運営に活かすよう検討されています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年3回開催される家族会や、毎月送付される「福香の家だより」で利用者の暮らしぶりを伝える機会を設けていること、意見箱の設置、随時行われる連絡などにより、家族が思いや気づきを伝えやすい雰囲気をつくっておられます。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム開設後まもなく、管理者をはじめ職員が地域に溶け込むための努力を積み重ねてきておられます。ホームを理解していただく手段として、チラシを持って1軒1軒訪ねて相談に応じるなどの働きかけは実を結び、地域からは「福香さん」と呼ばれるまでになりました。そして、地元地域とのつながりは町内会加入という新たな段階に進みつつあります。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの名前は、「この地域に根ざして幸せな余生を安心して送っていただきたい」という願いを込めて名づけられています。そして、「ゆっくり！ゆったり！のんびり・・・と！」という理念は、利用者、職員が喜怒哀楽を共にし、支えあいたいという思いをこめて親しみやすい言葉で作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎朝の申し送り時に職員が唱和します。職員一人ひとりが「昨日のケアはどうだったか？ 今日こんな気持ちでケアしよう」という振り返りと仕事への目標設定が自然にできるようになっており、理念と日々のケアが結びついています。		ホームの創設者である管理者がめざしている「この地域に根ざして幸せな余生を安心して送っていただきたい」という思いを事業体として継承するため、職員育成の面からも一層理念の浸透に努めていただくことを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者がチラシを持って地元を1軒1軒訪ねて歩き、地域とのつながりを丁寧に築いてこられました。毎月開催する「ふくかサロン」や地域の「公民館ふれあい祭り」への出品、介護教室への案内など、ホームを知ってもらう取り組みが着実に実を結び、来春からは町内会入会が予定されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組まれています。外部評価の結果は、運営推進会議や職員会議で報告し、改善の提案があった事項については、着実に課題解消に向けた取り組みが行われています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度から2か月に1回開催されるようになりました。また、開催時間帯の再検討を行ったこともあり、多くの参加が得られるようになっていきます。会議をホーム運営に関する知恵をもらう場として捉え、出された意見はホームでの生活に活かすよう検討されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な報告以外では、公民館で開催する「介護教室」に参加したり、地域包括支援センターと協働して認知症ケアの啓発に取り組んでおられます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	翌月の行事予定と共に利用者の暮らしぶりが報告されています。また、年3回発行される「福香の家だより」は、ホームでの暮らしぶりが写真を使って紹介されており、家族から好評を得ています。家族が訪問した際には、ホーム内に掲示されている行事の写真や職員からの報告で利用者の暮らしぶりを知ることができます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織されています。家族会は、運営推進会議に合わせて年3回、昼食を取りながら行われるなど、和やか雰囲気での思いや気づきを伝える機会となっています。また、意見箱が設置されており、言いにくい内容でも伝えやすいよう配慮されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの特徴の一つは、定年制がないことです。また、退職者も少なく、利用者や職員がなじみの関係を築いていることも特徴です。新入職員に対しては、業務日誌、個人記録をしっかり読むことにより、なるべく早く利用者を理解し、なじみの関係を築くよう指導されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの段階に応じて受講する研修を検討し、積極的に外部研修に参加されています。研修終了後は、「分かりやすく伝えるための工夫」と「人前でのスピーチ慣れ」をねらいとして、ホーム内で報告する機会が設けられています。また、資格取得支援も行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームとして全国グループホーム協会に加入されています。また、同区内にあるグループホームの開業前の職員研修に協力したことから、現在も行ったり来たりとの交流が続いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、家族と一緒に遊びに来てもらい、徐々にホームに慣れていけるよう時間をかけておられます。愛犬と共に入居した利用者もあり、これまでの暮らしとの連続性に配慮した取り組みが行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事を作ったり、後片付けをしたり、洗濯物をたたんだり、季節の壁飾りを作ったりするなど、本人の得意なこと、できることを職員と一緒にしています。訪問した日も、玄関の掃き掃除をしたり、昼食のおしぼりを配ったり、料理する利用者の姿がありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは、日々の会話や行動に表れるという理解のもと、職員は話を聞くこと、思いを受けとめることを大切に考えています。職員との信頼関係が深まった現在では、本音が出る場面も多くなってきています。ホームとしてできないことは「できない」と伝えることもあります。できる限り本人の思いを受けとめる姿勢が見受けられました。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を導入して、丁寧なアセスメントを行い、介護計画を作成されています。計画は、本人、家族の意見や担当職員の気づきや提案も盛り込まれたものとなっています。担当制は敷かれ、半年ごとに担当を替えるなどの工夫も行われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々作成される個人記録をもとにして、3か月に1回、見直しが行われています。また、利用者の状況に変化があれば随時介護計画を見直すこととしておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者は認知症アドバイザーの資格を持ち、利用者や相談者の状況に応じて近隣のサービス情報などを提供されています。また、ホームが主催する「ふくかサロン」は、地域住民と利用者のふれあいの場となっています。時には、学校が休みの日には、職員が子どもを連れて来て、利用者が一緒に過ごすこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医による往診が毎週3回行われています。利用者に異変がある場合は、医療機関の紹介手続きもとられ、利用者や家族の安心につながっています。また、口腔ケアにも力を入れ、かかりつけ歯科医による訪問診療も行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のホーム利用については、一定の方針を定め、できる限り相談しながら対応することとしています。医療の必要度、家族の協力、ホームの職員体制などを勘案し、希望があった場合は対応できるよう、看取りの指針も作成されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を「さん付け」で呼ぶなど、利用者の尊厳を大切に言葉かけが行われています。また、利用者の生活のペースを尊重し、やる気がでるような言葉かけも行われています。記録類は、用途によって保管場所を変えるなど、適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課は大まかに決まっており、利用者のペースに合わせ、散歩や作品づくりが行われています。散歩は、利用者のお気に入りの散歩コースがいくつかあり、何人かが一緒に出かけることもあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食材は業者から配達され、週に1度、利用者の希望メニューが献立として取り入れられています。また、食事をおいしくいただくために、口腔体操、セラバンド体操が食前の習慣として行われています。訪問した日は、調理やおしぼり配りなど、それぞれの役割を持ちながら食事の準備をする利用者の姿が見受けられました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き、入浴が行われています。一人ずつ入浴できるため、利用者の楽しみの一つとなっています。また、できる限り一人で入ることができるよう、手すりや長椅子の位置にも工夫が見られました。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝、訪問すると手に箒を持って玄関を掃き掃除する利用者に出会いました。これまでの暮らしの中で利用者が行ってきた家事や趣味、また、ホームに入居後に行うようになった作品づくりなど、利用者の力が毎日の生活の中で活かされる場面がさりげなく作られています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「施設の外へ、一歩でも二歩でも出て行く」ことが目標に掲げられています。具体的な取り組みとして、月2回の「お楽しみデー」を設け、利用者の楽しみを増やす工夫をされています。また、ホームの周りは豊かな自然に囲まれており、毎日の散歩が気晴らしや楽しみにもつながっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」に向けたガイドラインを作成され、職員は鍵をかけることの弊害をよく理解されています。利用者が外に出る時は、職員が見守ったり、さりげなくついていくなどして気持ちが安定するよう支援されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に行われ、その際には、近隣住民にも声をかけ、災害時に協力を得やすい体制を築かれています。また、自力で移動できる利用者には、実際に避難口までの経路を歩いてもらうなど、利用者自身が避難方法を身につけることができるよう支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かつては、食事や水分の摂取量の記録がきめ細かく行われていましたが、現在では、標準的な摂取量が職員間で理解され、栄養摂取の面から偏りがあると思われる利用者には個別に声かけが行われています。その際も、1週間単位で食事量を捉えるなど、利用者一人ひとりの状態を見て支援が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、窓を大きく取った造りになっており、どの部屋にいても外の景色を眺めることができます。共用の居間は、高さのある天井と大きな天窓により、圧迫感のない開放的な空間となっています。玄関には、利用者の靴が並べられ、家庭的な雰囲気があります。訪問した日には、一足早くクリスマスの飾りが行われていました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具を持ってきていただき、家族と相談して配置されています。レースカーテンはホームが用意しますが、カーテンやのれんは利用者が好きなものを掛けて个性的に部屋づくりをされています。それぞれの居室の入り口には、利用者の希望に合わせた表示をするなどの工夫も行われています。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム阿戸 福香の家

評価年月日 平成 21 年 11 月 24 日

記入年月日 平成 21 年 10 月 31 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 代表(管理者) 氏名 野田 愛子

	目	次
I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援 9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援 9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重 9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援 10
4 理念を実践するための体制	3	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援 11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援 12
		(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援 13
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	5	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり 14
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	5	(1) 居心地のよい環境づくり 14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり 15
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	V サービスの成果に関する項目 16
1 一人ひとりの把握	6	
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7	
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7	
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「一人一人の思いを受け止め、お互いに共感し、こ地域で喜怒哀楽を共にし、支えあってまいります。ゆっくり ゆったり のんびり…」と ゆっくり (スローペース) の入所者に合わせ、職員はゆったりした気持ちで対応し、お互いにのんびりムードで楽しく過ごす…をモットーにしている。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は、私たちの運営やケアサービスを提供するうえで、よりどころとするもので、ケアに迷ったときに立ち戻る指針です。理念を毎朝、勤務者全員で唱和して、一日のスタートにしている。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族には理念の趣旨を説明している。地域の皆様にはホーム便り、ミニサロン・ボランティア等の来訪、さらに見学時を利用して説明することで理解を得ている。理念の「・ゆっくり ・ゆったり ・のんびり」の掲示を見られた方はニコニコと微笑ましい表情をされます。	○	

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事には積極的に参加。とりわけ、定期清掃は欠かさず出席し喜んで頂いている。 地域の方々が野菜やお花・漬物などを届けてくださり、こちらからはサロンの案内をしたり、珍しいお菓子や手作りの「おはぎ」などをご近所におすそわけするなど、友好に努めてい	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域町内会会長さんから町内会規約を改正し、グループホームを町内会の一員とする旨、提案がありました。開設から5年、地域への信頼が出来つつあります。町内会規約の改正は2010年3月、加入は4月からの予定です。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	福香サロンを毎月1回開催し、利用者と共に地域の高齢者の方々に楽しんで頂けるよう、職員の話し合いのもとで運営し、積極的に地域に飛び込みふれあいに努めている。	○	
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	「評価の項目」は、ホームの運営および日々実践するケアのありかたを示しているものであり、事ある毎に読み返し、ミーティング・全体会議等で実践を検証しながらケア全体のレベルアップを図っている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は「第三者評価の場」と認識。地域に愛され、利用者が生き甲斐を持って生活できるための最も重要な会議と位置づけている。福香サロンは、運営推進委員会に提案し発足に至ったもので、毎月開催し継続している。実践結果の報告を行い委員の意見を基にサービスの向上に活かしている。	○	
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの近況報告を兼ねて、区担当課へ運営推進会議の議事録を持参するなど、情報の提供、共有に努めている。代表（管理者）は認知症アドバイザーの資格を活かし、地域包括センターと協働しながら、認知症ケアの啓発活動に取り組んでいる。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者の中に入所後、法定後見人制度を利用された方がおられ、その手続きや対応は経験済みです。しかし、後見人が弁護士の方で対応に精度の高いものが必要になることからマニュアルを作成し、全職員に配布すると共に勉強会を開いて十分な支援ができるよう研鑽している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止のマニュアルを作成し、ミーティングや会議を利用して勉強会を開いている。虐待や拘束は、対応する人の資質の低さが最も大きい要因と受け止め、職員は「明るい挨拶、優しい声かけ、気持ちのこもった気遣い」の徹底を心がけ、自己（人間形成）のレベルアップに向けて努力をしている。	○	
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出てくる家族の不安・疑問等を集約し、条項文の見直しや読み易いものに修正している。質問や疑問のない家族には、不安・疑問の事例も説明するなど配慮している。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	不満・苦情には「突発的なもの、繰り返し言葉や行動として出てくるもの、家族に対するもの」が見受けられる。突発的なものは、その場に居合わせた職員が複数で相談し都度解決に向け対応している。繰り返される言葉や行動および家族への不満等は、徹底した聞き役で対応し、その思いを家族（代理人）と相談のうえ介護計画に反映させている。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、家族に「メッセージ付き行事予定表」を送り、本人の近況や健康状態をお知らせすると共に、行事への参加のお願いなど行っている。年3回発行する「福香の家だより」には、ホームでの暮らしぶりを写真付きで掲載し安心して頂けるよう配慮している。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム行事や運営推進会議の機会に合わせた「家族会」の開催、玄関に設置している意見箱など、訪問時に家族が思いや気づきを自由に伝えられるよう配慮している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見・要望や提案・気づきなどを自由に伝えられる「連絡ノート」を備え、書かれた内容を職員全員が目を通し共有している。書かれた内容は、全体（全員出席）会議やミーティングの議題として運営や介護計画、ケアに反映させている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤者4名体制を確保し、職員都合の急な休みの対応も職員間で調整がとれる体制にしている。また、不測事態に備えての応援確保にはボランティア1名を何時でも対応できる体制もつくっている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	当ホームは定年制が在りません。そして、職員全員が「職場が楽しい」といえる雰囲気づくりを心がけている。理念の「ゆっくり、ゆったり、のんびり...」は職員も気持ちに“ゆとり”を持って楽しく働けるためのでもあります。利用者の皆さんに信頼されるよう気配りして日々のケアに頑張っている。	○	
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々のスキルを考慮して研修内容を検討し、順次受講できるようにしている。研修後は「本人の復習と次に受講する職員のための予習」そして、「人前でのスピーチ慣れ」を兼ねた報告の機会を設け、本人のレベル向上を図っている。さらに、介護福祉士等の資格取得を啓発し、家庭内の事情等も聞きながら、受験しやすい環境づくりの配慮もしている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームへの見学や研修等へ積極的に参加し、意見交換から学び、ケアに活かしている。また、他事業所からの養成実習の受け入れにもできる限り応え、当職員のスキルアップにつなげている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	言葉づかいに「明るい挨拶、優しい声かけ、気持ちのこもった気遣い」を徹底させつつ、ホームを大家族の世帯と思えるような雰囲気をつくりに徹している。職員は一日を家庭の中で過ごしている感じで、仕事ができるように配慮している。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の「良い面」を引き出す工夫、努力が報われなくても「努力の過程を評価」することを心がけている。職員には必ず“ありがとう”の言葉かけをするなど失敗しても常に向上心が持てる取り組みをしている。	○	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所後は生活環境が大きく変わることの本人や家族の不安・疎外感を考慮し、「知った人がいる」という安心感が持てるよう、事前訪問を多くとっている。また、家族同伴で数回来訪され「顔なじみ」となり、入所に至ったケースもある。日中は、職員（日勤者）4名体制を確保しており、ゆとりを持って利用者・家族のお話が聞ける体制をとっている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人に対する家族の介護・経済状況、そして、本人の身体状況を聞き取り、グループホーム以外の介護施設の紹介もしている。当ホームへの入所を希望される場合は、ホームの説明をすると共に見学を要請し、その後は、他同業種への見学も奨めている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には職員も訪問し、顔なじみになるよう心がけている。また、居室を入居前の暮らしに近づけることで不安感の解消にも努めている。しばらく体験入居された方、愛犬と共に来られた方、居室を畳の間に模様替えされた方など、一人ひとりの事情に柔軟に対応している。	○	
----	--	--	---	--

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者皆さんが自分の役割を見つけ、それを実現できるように支援をする」という目的を持った関わりをしている。料理の味付けは職員が教えるを願うほどの腕前を發揮される方、洗濯物を干すのに便利なたたみ方をして下さる方、食後の後片付けを完璧にして下さる方などなど、「必要とされている人」という安心感から毎日、生き生きと生活されている。	○	
----	---	--	---	--

28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	不満や苦情として恒常的に出てくる繰り返す言葉や行動には、徹底した聞き役でその真意の把握に努め、ありのままを家族（代理人）に伝え、相談のうえ介護計画に反映している。また、家族同伴外出（外食・生活必需品の購入など）の機会を多くしてもらうための働きかけをしている。	○	
----	---	---	---	--

29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		○	
----	---	--	---	--

30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	「会いたい人、行ってみたい場所」などの要望は日帰りの範囲と、本人の体調を考慮のうえ、家族の了解を得て実行している。（実家・知人宅への訪問、墓参りなど）	○	
----	---	---	---	--

31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の皆さんが、活躍し充実していた頃の「得意なこと、好きな事」を把握し、共通するものを話しのきっかけとするなど気配りをしている。また、無口で話の中に入れない方には、得意だった事、好きなものを職員が問いかけ、誘導するなど、関わりができるように努めている。	○	
----	--	---	---	--

32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された方の家族には、ホームの近況をお知らせするお手紙や「福香の家だより」を届けている。また、自宅復帰されたお元気な方には、ホーム行事への参加の招待状を届けるなど、家族同伴での来訪をお願いしている。	○	
----	---	--	---	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや気持ち(好きなこと・嫌なこと・やりたいこと・やりたくないこと)などを利用者の立場に立って職員自身が書き出し、自らのケアを振り返るなど、常に利用者本位の支援となるよう努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	炊事・洗濯・掃除などを通して「役割」をみつけてもらい、安心感のある生活ができるよう支援をしている。職員が付き添い、一緒に作業をする中で「思いや気持ち」が把握できるよう心がけている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態は個人記録表や連絡ノートで把握している。連絡ノートは、職員の入所者における気づきや対策等も記録し、介護計画に反映している。	○	

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の来訪の際には、出来るだけ個人記録表を見ていただき、意見を聞いている。地域包括支援センターや他同業の方との接触時には、意見やアイデア交換を行うなど介護計画に反映している。	○	
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の個人記録表をもとに、3ヶ月に1回(基本)の見直しを行っている。アセスメントを丁寧に行い、日々の状況変化や、入退院の状況変化に応じて、随時、介護計画を見直している。	○	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に記入した気づきや工夫は、毎朝のミーティングで共有し、その日の実践に反映している。即日対応できない内容は全体会議にかけるなど、介護計画の見直しに活かしている。	○	

3 多機能性を活かした柔軟な支援

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	サロンを開催することにより地域の方とのふれあいを深めている。また、利用者の要望に応じて、遠方の墓参りにも対応するなど柔軟な支援もしている。	○	
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	公民館活動や地域ふれあいの各種行事に積極的に参加することにより利用者一人ひとりの心身の力が発揮されており、地域の皆様も温かい気持ちで接して下さるようになりました。地域町内会会長さんが、町内会規約を改正し2010年4月からホームを町内会会員にすることを約束して下さいました。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	社外研修や他同業所の方との交流の際、他サービスの活用の事例や解決方法など、意見・アイデア交換を積極的に行い、利用者のためのサービス向上に活かしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターのスタッフが来訪された際、個人情報・虐待・拘束について意見交換も心がけている。特に言葉の虐待、拘束は気づかず、見過ごされる場合があるため、ケア状況を検証してもらい、意見を求めるなどきめ細かい対応をしている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医（地域の大中医院）に週3回往診をお願いしている。入所者に異変がある場合は即、駆けつけ、専門医療機関への紹介手続きもして下さる。さらに、かかりつけ歯科の訪問診療も整え、治療のほか、口腔ケアの研修の講師もお願いしている。「三度の食事が楽しくなった」と喜ばれる入所者が増えました。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	大中医院の往診時、認知症の状態（進行具合、行動の異常性など）を相談し、指示や対応策を介護計画に反映しケアの向上につなげている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師職員による日々の健康管理チェック及び行動観察による気づきを介護職員と相談し、必要があれば大中医院Drに報告のうえ対応している。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、見舞い回数を多くし、入院による不安の解消に努めている。併せて認知症低下のチェックも行い、病院へ医療経過の状況を聞くなど退院後のケアに備えている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した場合や見取りの対応については、入居契約時に、ホームの医療体制や方針を提示し、家族の了解を得ている。その上で、家族と常に話し合いを重ねながら、そのときの状況により対応している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者には、特にメンタルケア（・身体的苦痛の緩和・コミュニケーションの重視・プライバシーの配慮・全てを受容してニーズに沿う態度で接する）に配慮している。家族には、・話しやすい環境を作る・希望や心配事に真摯に対応する・家族の身体的、精神的の軽減へ配慮するなど心がけている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	本人の入所前は、職員の家庭訪問を積極的に行い、入所時に顔なじみ職員ができることを心がけている。また、退所する場合は移動先の病院や施設等の状況を詳細に説明するなど、不安解消に努めている。	○	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの思いを尊重し、プライベートの確保に配慮する姿勢で日々の取り組みを行っている。職員は、言葉づかいに「明るい挨拶、優しい声かけ、気持ちのこもった気遣い」を心がけている。個人の記録は何時も職員が見守れる場所に保管し、守秘義務の徹底した取扱を行っている。	○	
----	---	---	---	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員は、一人ひとりの思いを尊重し、聞き役に徹している。受け答えは「否定言葉や抑圧的な言葉」を使わず、本人が理解できる言葉に変えて辛抱強く対応している。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「私たちサービス側のペースに利用者の皆様を巻き込み過ぎてはいないでしょうか?」...と、運営理念の解説に書き込み、掲示して、職員全員が何時でも原点に立ち戻れるよう配慮している。	○	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	衣装選びは最終的に利用者自身に決めてもらいますが、準備の際の職員との会話が大変微笑ましい。お化粧品は、その人の個性が出るよう時間をかけてお手伝いをしている。また、理美容は、月1回地域の業者が来訪し行きます。毛染めのお手伝いは日常的に職員が支援します。利用者も職員も一番生き生きとしているひと時です。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、後片付けを通して利用者の持つ力が発揮できるよう支援している。週一回「利用者の好物メニューの日」を設け、買い物から調理まで利用者と職員が協働して取り組んでいる。収穫した玉ねぎ・大根を軒先に干し、食べる時が楽しみと感ぜられるよう工夫をしている。また、食事前には、セラバンド体操、口腔体操を行い食事を美味しく、そして集中して摂取できるように支援している。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	月2回の「お楽しみデー」を計画し、一人ひとりの希望に合わせ、好みの物を食べに行く・コーヒーを飲みに行く・買い物に行く等、少人数で出かける機会を多く作って楽しい一日が過ごせるよう支援している。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人記録から水分補給と排泄つ状況を分析し、間隔の把握に努めている。それを誘導に活かし、習慣づけをすとも気持ちよく排泄つが出来よう支援している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の誘い、声かけを行うなかで、無理強いすることのないよう配慮し、本人のペースに合わせている。ゆっくり浸りたい利用者の順番にも気配りをするなど、個々の習慣に合わせて入浴を楽しめるよう支援をしている。設備はノンスリップ床。手すり、シャワーチェアなどを整備している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	恵まれた自然環境を活かし「散歩、菜園、グランドゴルフ、日光浴や森林浴」、時には昼食やティータイムを屋外でするなど、体をしっかり動かし、気持ちよく休息していただき、夜によく眠れるよう支援している。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりに「役割を見つけてもらう」ことを理念に掲げています。食事前に使用するオンボリの準備、台所仕事、生け花、カレンダーめくり、洗濯物干し、草取り、畑仕事等、生活の場面ごとに利用者の持つ力を発揮できる支援を行っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者は、お金の大切さを体で覚えておられます。家族に月5,000円までを限度に所持をお願いし、ホームで個人別管理をしながら、楽しみにされている買い物への支援を行っている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	生活記録簿に外出の有無を記録し、回数・目的地・内容等に偏りが無いよう支援している。さらに、恵まれた自然環境を活かし、散歩を兼ねた外出を毎日行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	本人の思いを家族に伝え、家族が対応できない場合は、家族に代わり日帰りの範囲で支援している。また、四季おりおり「行ってみたい・見てみたい」場所への要望には、家族も参加できる日程を選ぶなど本人と家族がともに楽しめるよう配慮している。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話機はコードレスでフロアの中央に置き、何時でも使用できるようにしている。また、お手紙は近くの郵便局まで職員同伴で散歩を兼ねて投函に行くなど配慮している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人が来訪された際、職員は「邪魔にならず、傍観せず、丁寧すぎず」モットーに普段のままの対応を心がけている。一度来られた来訪者が、“また顔をのぞけてみよう”という気持ちになられるような接客を指導している。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ」に向けたガイドライン（マニュアル）を作成し、勉強会を行い、職員はよく理解している。「閉じこもらない、閉じ込めない」という方針のもと、玄関の鍵は日中かけていません。職員が何時も側に寄り添い利用者の安全と気持ちの安定に配慮している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の姿が目にとまりやすい位置に職員自らが移動したり、付き添ったりして見守りを行っている。夜間は巡室を徹底し安全の確認をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ライター、マッチ類の火気は、家族にお願いして持ち込み禁止にしている（重要事項に明記）。針やハサミ、カッター等を使う手芸、裁縫は職員が見守りを兼ねて一緒に行っている。保管は、使用前、使用後の本数をチェックするなど、安全に努めている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「利用者への十分な配慮が欠けた時、介護事故が発生する」ことを職員は認識している。利用者一人ひとりの「ひやりハット」を作成し、常日頃より注意を怠らないよう確認しあっている。	○	
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	毎年、赤十字病院から講師を招き、事故の初期対応や救急救命の実践訓練を受けている。さらに地域団体主催の同種訓練にもふれあいを兼ねて参加している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難・誘導訓練を消防署と協働して年2回実施している。日常生活の中では、元気に動ける入所者には、避難出口までの経路を歩いていただき、体で覚えられるよう支援している。近隣の方には避難訓練に参加して頂き、被災時の応援をお願いしている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入所者一人ひとりの思いをしっかり受け止め、家族にありのまま伝えるよう心がけている。家族からの意見や要望を聞きながら介護計画に反映し、本人も家族も不安や抑圧感が解消される取組みに努めている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝起きられた際やバイタルチェックで体調の変化をしっかりと観察するよう心がけている。異変が確認された場合は症状を速やかにかかりつけ医に連絡し、対応の指示を受けている。情報は朝のミーティングや業務日誌および個人記録表で共有できるようにしている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の種類や量は変化が伴うので、ミーティングや全体会議で都度、取扱を説明している。また、業務日誌、連絡ノートで周知し共有している。利用者への服薬の際は、薬に記載された名前と本人を確認するなど誤服のないよう心がけている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘ぎみの利用者には、毎日の散歩を少し多めにするなど、水分補給や運動量を増やしている。そして、安易に下剤を使用しないで、排泄のさいに便座に座って頂きマッサージをするなど、便意を促す支援をしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	かかりつけ医（歯科）の定期的往診による治療と毎食後の口腔ケアで利用者全員良好な状態になっている。食事の「味が分かるようになった」「痛みが無くなり食事が楽しい」...と喜ばれている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分補給量は個人記録で毎日チェックしバランスの取れた食生活が出来る支援をしている。好き嫌いで栄養が偏りがちな方は、無理強いしないで一週間の献立で不足分を補うなど、バランスが取れるよう配慮している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、勉強会も開き感染予防に努めている。インフルエンザの予防接種は家族の同意を得て職員とともに全員接種している。都度手洗いうがいを励行し、手ふきなどはペーパータオルを使用している。来訪者には、職員の誘導で手洗い・うがいを行ってもらうようにしている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・ふきん、など台所用具は、夜勤職員が毎日消毒を行っている。一日の食材は業者から届き、新鮮で栄養バランスも調整されている。冷蔵庫などに保管する食品には日時を表示するなど、賞味期限・消費期限チェックの配慮をしている。	○	
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	'暖かみのある手作りの表札、玄関周りには季節の花、庭には利用者が作った菜園や花壇がある。散歩の途中腰をかけられる大きな庭石を二つ置き、ちょっと休んで、お茶を飲んだり団らんができる工夫をしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアは開放感を重視した造りにしています。大きな天窓から差し込む太陽光はフロアを優しくつつみ、ゆったりした雰囲気を出している。共用空間全て天井が高く圧迫感が出ないよう工夫している。生活の中心となる居室は余分な造りをしないで、好きな箇所に自由にものが置けるよう配慮している。台所は明るく機能重視とし、一般家庭の延長型。自然に囲まれたホームの環境は散歩に出かけた利用者が都度摘んでくる草花が飾られ暖かい雰囲気になっています。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室はフロアを挟んで東西に位置し、フロアから見る事ができる。フロアの一角には気軽に腰をかけて語れる“畳の間”を設け多機能的に使用している。テレビを観覧しながら談笑できるソファは、友人・知人など来訪者と語れる憩いの場でもあります。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は余分な造りをしないで利用者の好みで自由にものが置けるよう配慮した造りとしている。畳で住み慣れた利用者は居室に畳を敷き、自分らしい工夫で安心して暮らされています。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	広いフロアには大型エアコンが2機設置され、風向きを上下に変えられる3個の大型のインテリア扇風機と協働し、室温調整がホーム全体を素早くできるようになっている。また、居室を含め全ての部屋には24時間換気が作動可能になっています。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム全体がバリアフリー。トイレ、浴室は車椅子も可能。浴室はノンスリップ床、フロアや居室の床も滑りにくい材質で加工している。食卓の椅子は重量があり安定性の高いもので、利用者の身体機能に合わせている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ・浴室などには大きな文字で表示、居室は手作りの表札を目線の位置に掲げるなど工夫をしている。利用者個々の状態に合わせて都度カンファレンスし、不安の要因を出さないよう心がけている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームは四季を楽しめる自然環境の中にある。ホーム周りには出来る限り未舗装とし、島や花壇作りを利用者と職員で行い楽しい毎日の活動ができることを重視している。菜園作りの合間や庭の散歩時、腰をかけて語れる石のベンチ、お茶を飲みながら談笑できるパラソル型のテーブルも置き、ゆったりした時間が過ごせるよう工夫している。	○	

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど揃っていない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目